

令和元年度

八千代市生活支援体制整備事業協議体 第1回会議録

日時 令和元年7月17日（水）午後1時30分～午後3時30分

場所 市役所4階 第1委員会室

- 議題
1. 会長あいさつ
 2. 第2層生活支援コーディネーターの進捗状況について
 3. 第2層生活支援コーディネーターの活動報告及び進め方の検討
 4. 第1層生活支援体制整備事業協議体の今後の方向性について
 5. その他

出席者 椎名委員，犬塚委員，大竹委員，倉沢委員，鈴木委員，白濱委員，山崎委員，森委員
保坂委員，新井委員，伊藤委員，松村委員，山下委員，八巻委員，庄田委員，野添委員，
中村委員，森田委員，岡部委員，鈴木委員

事務局 長寿支援課齋田課長，長寿支援課地域包括支援センター若林所長，長寿支援課石橋主任保健
師

公開又は非公開の別 公開

傍聴人（傍聴人定員数） 0名 （5名）

石橋

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより令和元年度八千代市生活支援体制整備事業協議体の第1回会議を開催いたします。

本会議は、「八千代市審議会等の会議の公開に関する要領」の規定により、会議を公開するとともに、会議録作成のため、録音させていただきます。あらかじめご了承ください。

長寿支援課の課長が昨年4月1日付けで交代となり、本日、ご挨拶させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

齋田課長

皆様、こんにちは。長寿支援課長の齋田です。委員の皆様におかれましては、日頃から介護保険行政にご尽力、ご協力をいただき厚く御礼申しあげます。私は本年の4月に生活安全課長から長寿支援課長になりました。長寿支援課長となり数か月ではありますが、高齢者の生活を地域で支える活動を行っている関係機関の皆様、生活支援コーディネーターの皆様を行政として支援できるよう努めてまいりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。

石橋

ありがとうございました。

なお、課長は業務の関係で、ここで退席させていただきます。ご了承ください。それでは、次に本日の会議資料の確認をさせていただきます。

- ① 本日の次第
- ② 令和元年度八千代市生活支援体制整備事業協議体第1回会議席次表
- ③ 圏域ごとの実績報告
- ④ 大和田圏域資料
- ⑤ 阿蘇・睦圏域資料

資料は以上となっております。不足している方がおられましたら、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

山崎会長、ご挨拶をお願いいたします。

山崎

皆さん、こんにちは。今日は、元号が変わって第1回目の会議になります。八千代市は少子高齢化が進んでおります。八千代では地区社協は21支会あります。問題点が多く、サポートする側も大変です。その中で、皆さんのお力を借りながら、地域福祉を考えていこうと取り組んでいます。会議の2回目は来年になるかと思っております。様々な課題が出てきますが、大変なのは生活支援コーディネーターだと思います。農村部と都市部では課題が違うこともあり、なかなか一人では先が見えてこないこともありますので、

活発なご意見を皆様にいただけたらと思います。

石橋 本日の会議は圏域を絞って、議論を重ねることで生活支援コーディネーターが今後の各圏域で本事業の進め方に活かしていくため、コーディネーターの意見交換を中心に進めていきます。

山崎 それでは、第1層のコーディネーターの八巻委員に進行をお願いします。

八巻 本日の進行を務めさせていただく八巻です。よろしくお願いたします。議題の2番に移ります。各圏域の実績報告を配布しております。今後も多数ご協力いただくかと思っておりますので、書面での報告とさせていただきます。議題の3番の第2層生活支援コーディネーターの活動報告及び進め方の検討に進めさせていただきます。第1層と第2層の生活支援コーディネーターは2か月に1回連絡会議を開催しています。1層の協議体の委員の方がいる中で現状を発表し、コーディネーターが悩んでいること、思っていることを共有して進めていきたいと思っております。それでは、大和田地域包括支援センターの鈴木委員をお願いします。

鈴木 大和田地域包括支援センターの鈴木と申します。まず、今年度の大和田圏域の生活支援コーディネーターの年間活動計画の予定をお伝えします。(1) 地域の社会資源の情報収集と分析では大和田支会、小板橋支会、大和田新田下支会、萱田支会、ゆりのき台支会の定例会や民生委員・児童委員連絡協議会、介護予防サロン、やちよ元気体操グループなどの高齢者の通いの場に参加し、情報収集を行う予定です。(2) では年2回の第2層協議体の開催を予定しています。(3) では第2層協議体の結果を第1層協議体で報告し各委員と連携します。(4) 社会資源マップは12月から整理し、3月ごろに作成配布を予定しています。(5) 活動が活発な地域を把握した際には介護予防や認知症に関する情報を伝え、生活支援の企画の提案、既存の活動が活発な団体や人材の紹介を行います。(6) 今年度の担い手養成講座は開催を予定していませんので、他地域の担い手養成講座を見学します。

次に今年度の4月～6月の活動実績についてお話しします。大和田地域包括支援センターでは、まず、大和田地域の情報を集めたり、住民の方々と関係をつくることから開始しました。地域を知るために、地域で活動している団体(支会のサロンや介護予防サロン)を回り、参加者の様子や活動内容を聞かせていただきました。関係の継続のため、何度か参加させていただいています。

今年度の活動としては、やちよ元気体操応援隊グループが圏域に22団体あるので、熱心に活動している団体を健康づくり課と同行し見学に行かせてもらい、活動内容を知り、代表者や参加者の方に包括の周知を行っています。

元気体操のグループの見学では、地域で実施した認知症サポーター養成講座でお会いした方に、元気体操でお会いしたり、複数の元気体操グループで会う方がいたり、サロンの運営などに携わっていなくても、参加者としていろんな所に顔を出している人が多く居ることがわかりました。

また、サロンに来るメンバーが固定されつつあり、新規の方が参加するハードルが高くなっている印象を受けました。地域資源について、交流の視点ひとつとっても圏域内にどんな活動があるのか丁寧にみていくだけでも時間がかかっています。

第2層生活支援体制整備事業協議体について、大和田圏域では第1回目の協議体を1/22、第2回目を7/2に開催しました。第2層の協議体の役割を2点に焦点を絞り、1点目は第2層の役割を生活支援に関わる団体・人材が、それぞれの取り組みを把握し、情報交換ができるネットワークの場を作ること。2点目は、地域ニーズの把握、情報のみえる化の推進を目的として、高齢者に関わる方の意見を聞き、生活支援に関わる必要な情報を収集することを目的に開催しました。第2層協議体のメンバーには支会や介護予防サロン、ふれあい大学卒業生などを中心にこのような活動に興味がある積極的な団体・個人に会議開催の周知を行いました。

第1回目の協議体では、地域包括ケアシステムや高齢者の現状について説明を行いました。サロンの場に関わっている方が多かったため、活動の中で感じていること、困っていることをグループワークで意見を頂きました。出た意見としては、歩いていける距離にサロンが欲しい、男性のサロンの参加が難しいので、男性が参加しやすい防災やバス旅行などの行事を考えていく必要がある、ふれあい大学のOBとして地域貢献したいが何をして良いか分からない。などの意見が出ました。

第2回目の協議体では、前回は踏まえた上で、個人に焦点を絞り、グループワークのテーマを「自分や自分の周りの心配事・困りごと」、「10年後の心配事・困りごと」について意見を頂きました。出た意見としては、認知症の不安、年金などの経済的な不安など漠然とした不安が多く、地域で〇〇に困っている人が多いなどの意見は出てこなかったです。次に「現在、知っている解決方法」と「解決方法の案」について意見を頂きました。出た意見としては、長寿支援課に相談する、今を精一杯生きる、草だらけにならないように石タイルを敷き詰めるなどの意見が出ました。今回、グループワークでは地域の課題に繋がる困りごとが出てこない印象でした。発表の際に関係機関のネットワーク作りが大切という意見が出たため、お互いの活動を知るところから始めることとしました。ネットワーク作りが大切という意見からまずはお互いの活動を知ることが必要と考え、7/13に元気体操グループであるプラチナグループの見学会を企画し、萱田支会と介護予防サロンであるクロス・25の方と一緒に見学を行いました。お互いの活動を実際に見ていただくことで、相互に知ることができました。見学した方は熱心に写真を撮り活動について情報交換を行うことが出来ました。

石橋

課題と考えていることについては一緒に活動をしている石橋から説明させていただきます。鈴木からも報告がありましたが、大和田の場合はサロンの活動をされている住民の方に声をかけ、協議体の会議を開催しています。地域住民の実態がよく見えていると思い、お声を掛けました。1回目の協議体ではサロンの困りごとを聞いたので、自分事としての意見が出ました。2回目の協議体は参加しているサロンの方や個人の生活に焦点を当てて困りごとについて話し合いを行いました。会議の場では意見が出なかったように思われたので、会議後に電話をかけて感想を聞き、出された意見を整理しました。職員が整理した協議体の実施報告書に意見をまとめたものを載せています。本当は協議体で住民の方と一緒に整理したほうが、それぞれの考えやお互いの理解によかったと思っていますので、次の協議体では意見を一緒に整理することも考えていきたいです。出された意見を整理したときに皆さんいろいろな課題が出てきているのがわかりました。今後、どんな視点で課題や困りごとを考えればいいのか、協議体でどのようなテーマを絞って話を進めればいいのか悩んでいます。例えば、生活上で困っている人の多さや共通性、様々な統計から地域課題をどのように捉えていけばいいのか悩んでいます。大和田の場合はサロンの運営者に声を掛けましたので、新たなサービスが立ち上がるというよりも運営方法に活かされる視点やかかわり方など内容が充実して変わってくればいいのかと考えています。また、高齢者が関わる団体のネットワーク化を継続していきたいと考えています。今回、2回目の協議体が終わった後に参加した方に電話したところ、職員としてはふわっとした感じで終わったのかなと思っていたのですが、参加した方は何回も話し合いをやっていきたい、ネットワークができるようにしていきたいという好評な意見があり、まずは団体同士が繋がれるお手伝いをしていきたいと考えています。

山下委員からアドバイスをもらいたいこととして、どんな視点で、課題や困りごとをどんな視点で捉えていけばいいのかご助言をいただきたいです。社会資源マップについてですが、今年度、情報を整理して年度末に配布する計画を立てているのですが、マップは手段であって作成することが目的ではないということは理解していますが、コーディネーター自身が地域資源を知らないところが多く、いろいろなところで顔を出していますが、把握していないばかりな現状で、困りごとを解決するためにマップがあるのに、課題ってなんだろう見えていない中、マップに掲載する内容についてどのような記載をすればいいのか悩んでいます。

八巻

大和田さんありがとうございました。地域課題はどの順番で解決しているなど地域課題をどのように選んでいますか。皆さんからご意見をいただきたいと思います。グループワークをすると2層の委員さんからさまざまな意見が出てきてその中から課題をどのように解決しようか悩むところだと思うのですが、2層のコーディネーターの方が良いでしょうか。

庄田 勝田台地域包括の庄田です。悩んでいるというところからアドバイスにはならず同じような悩みになります。勝田台地域包括でも協議体で話をして絞り込みをどうするかということになり、一番やりやすいところからやってみようということになりました。本当に困っている課題かどうかはふたを開けてみると結構皆さんができていて、その後が繋がりませんでした。できるところからやってみながら考えてみる方がいいのかと思いました。課題の絞り込みは難しいと感じました。

八巻 そうですね。やってみたら困ってなかったということがありますが、それがハズレではなく、できるところから解決してみたというところで住民の方が動いた方がいいのかと私は相談を受けながら思いました。他にいかがですか。森田委員いかがでしょうか。

森田 八千代台地域包括の森田と申します。先日八千代台でも2層の協議体をやって、ゴミ捨てのことが課題に出たのですが、お困りの方はいると思いますが、意外となんとかなっているようでした。他の課題としては男性の参加者が少ない、実際にサロンに参加している方の生の声を、私もあまり聞いた事はなかったのですが、支援者の方で集まってどうするか話し合いはしますが、実際に困っている人からの声が聞けていないという意見が上がった時はその通りだと感じました。それで周りの他の人達の声を聞いてみよう、一緒に参加してくれそうな男性の方がいたら今度参加してもらおうという話になったので、庄田委員と同じでやりやすいところやみんなが共感できるところからスタートするのがいいと感じています。

八巻 ありがとうございます。庄田委員と同じように言って下さったように皆さんが動けるところに焦点を当てるとのことと、森田委員からキーワードが出たと思うのですが、「生の声にまだ届いていない」ということを他のコーディネーターの人も思っています。会議に来ていただいている方達のその向こうに生の声がありますが、生の声に届いていないということはどうすればいいのか2層のコーディネーターさん達と考えるところですか。もしよろしければケアマネ・ネットワーク白濱委員。2層の協議体で出る課題はゴミ出しが多いですが、協議体の中では実際に困っていないという着地点になってしまうのですが、実際にケアマネさんの立場として、関わっていかげんでしょうか。

白濱 要介護の方たちが中心になりますが、ゴミ出しのことは問題としては上がりますが、その時間帯にヘルパーさんが入ってゴミ出しができるかと言うとそうはいかず、課題には上がりますが、そのままになってしまいます。結果として誰かがうまくやってゴミを出してくれることが多いです。ケアプランにヘルパーさんのゴミ出しを入れているプランを見たことがありません。ゴミ出しは地域課題に上がりますが、意外とどうに

かなっているのがゴミ出しだと感じます。

八巻 ありがとうございます。実際そうだと思います。森委員はゴミ出しの件で何かありますか。

森 勝田台支会の森です。ゴミの課題は第2層で出るのでありますが、私は民生委員をしているので、地域で病気や怪我をしたお一人暮らしの方はよく会います。そうするとお隣近所が短期の場合は朝8時頃一緒に出してくれているのです。うちの自治会は班ごとの場所にゴミを出しますが、ゴミ捨て場が遠かったら近くに出していいというルールがありまして、体調がすぐれない足腰が悪いなどの理由であれば班が違う場所に捨てていいことになっています。長期で介護を受けるようになって、腰痛で重いものが全く持てなくなった場合などは、「有償ボランティアさくら」30分500円で女性が10名で活躍していますが、ここ4～5か月はその方が玄関まで出しておいたゴミをボランティアが出してくれています。5分くらいで終わってしまう作業に30分500円という値段はつけられないと思った場合は、2人で話し合って4回で500円にしているそうです。それは会のルールではなく、会が認めてやっていることで現在も続いています。その方が入院されているので活動は止まっていますが、2人で話し合って退院後はまた再開してもらうことが決まっているそうです。立ち上がったボランティアが有効に使われていて、すごくうまくいっているケースだと思います。以上です。

八巻 ありがとうございます。立ち上がったところで解決してくれているのと、ケアマネさんから見ると結局誰かが何とかしてくれているのが現状なのだと思います。結局誰かがというところに担い手養成講座でできたグループや、担い手養成講座を受けなくても地域の方たちがやってくださっているという現状があるということですね。もう少しゴミ出しのことで聞いてみたいのですが、事業所さんとして、活動されているシルバー人材センターや椎名さんの「ちょこっと」でゴミ出しについての相談は2年前から話としては出てきていると思うのですが、増えていると感じますか。その辺をお聞きしたいのですが椎名委員いかがですか。

椎名 ユーアイやちよの椎名です。依頼が増えてはないのですが、常に需要はあります。昨年の5月から始めてゴミ出しの方だけで今6件目です。入院・入所されて終わりになった方も2～3件あります。今は週3回のゴミ出しを2人でやってくれています。たまたま八千代台東の方を八千代台西のボランティアさんが週2回行ってくれて、八千代台東のボランティアさんが週1回やってくれています。つい最近始まったのは私の家の近くなので週1回忘れないようにしながらやっています。現在ゴミ出しをやっているのはその2ケースです。これは担当のケアマネさんから「ユーアイ小さなお手伝い」に連絡が

来て始まったケースです。

八巻 ありがとうございます。増えているというよりケースとして実績が上がっているということですね。シルバー人材センターはどうですか。ゴミの問題の問い合わせが増えているという実感はありますか。

松村 粗大ごみを出してほしいという依頼が月に1回あるかないかというペースですが、依頼の経路としては市のクリーン推進課から来る場合とお客様から直接受けた場合とありますが、そんなに極端に増えたという印象はないです

伊藤 ゴミではないのですが、お体が不自由で買い物をできてほしいという依頼が指名であるのですが、結構品物が多いです。車で行ってそのお宅に届けに行き、買った物をチェックしながら領収書を渡して、現金をもらって印鑑をもらって、それをシルバーに出しています。そういう方が一人、毎回指名できます。買い物もシルバーがしているということを周知していないのだと思います。シルバーは困りごとがあったら何でもしますとPRはしていますが、そのPRがなかなかうまくいっていないようです。だからなかなか利用されていない、家事や掃除何でもやるのですが、なかなか広がっていきません。PR不足だと思うのですがガラス拭きでも電球の交換でも何でも500円でやるのですが、本当はもっと広報に載せてくれば少しは仕事が増えるかと思います。そうすればシルバーも元気に頑張れると思います。今シルバーは元気がないです。

八巻 ありがとうございます。買い物のことも出てきました。ゴミの方も実感としては無いけれども粗大ごみのことは相談があるということなので、粗大ごみのことで困りごとがあった時にシルバー人材センターに繋がられるのだと改めて実感できました。そういったかたちで繋がってほしいと思います。先程からどんな視点で困りごとを捉えていけばということですが、生の声が上がっていないというのが原点としてあるかと思うので、生の声を上げてもらうためにはどの層に声を掛ければいいのか、お知恵をいただければ協議体の会議をする時に声掛けができると思いますので、委員さんの中で「こちら辺りには声を掛けた」というようなことがあれば、ぜひご発言いただければと思います。大竹委員いかがですか。

大竹 民生委員を代表して参加している大竹です。民生委員をやっている気になったことは、9月1日に防災の日が来ますが、防災という視点から、災害があった時に市に対して助けてほしいと手を上げている方が市民の中に1700人くらいいらっしゃいます。1700人の方は民生委員がそれぞれ地域担当で全員把握していますので、災害時の安否確認は当然やらないといけないのですが、こういう人たちは日常生活でハンディキャッ

プを持っているので、災害時には助けが必要になります。一人一人こういうところを理解して、市から預かっているヘルプカードに困りごとを記入するようになっていきます。8月から10月まで1700人のところに一斉に約200人で回りますので、その時にそのことも地区対象に考えてもいいのかなと思いました。

八巻 貴重な情報をありがとうございます。ヘルプカードの中に困りごとを書く欄があるのでですね。皆さん知っていましたか。ぜひこちら辺は2層のコーディネーターさんは活用していただければと思います。よろしくをお願いします。

大竹 困りごとというのは災害の時に避難する時の困りごとを書いています、今のことで十分使えると思います。そうすると管轄が防災と違ってくるのですが、それは市全体で、今日は山下委員いらっしゃっている、あとでそういうことを大きなテーマにしてみるといいのではないのでしょうか。

八巻 ありがとうございます。その視点も入れていただいて民生委員さんがその情報を持っていらっしゃるということで、一番近い生の声が聴ける部分でやっぱり民生委員さんは重要だと思いますので、皆さん民生委員さんにお声掛けしていければと思います。他にどなたか生の声を聴くのに、こんなところに声を掛けてみたらどうかというご意見をお伺いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

伊藤 生の声で、少し呆けてきたから話し相手に来てくれないかと言われます。民生委員としてそのうちに行きますと言いつつなかなか行けず、3か月に1度くらいになってしまいます。やっぱり高齢化してきて、高齢者世帯になりどちらかが亡くなれば一人きり。一人きりになると男の人はチャンバラばかり見て酒を飲んでいる。女の人はテレビ見てどこにも行かず歩かない。普段から歩かないからますます歩けなくなってしまう。口を利きたくても猫が相手だと返事が帰って来ないから話し相手がほしいという要望はあります。それならば支会とかに出てくればと言うと、たくさんの人の前では話せない。健康体操の参加を促すとぎっくり腰なのに健康体操に行けばさらに悪くするのでそういうところも行けない。誰かが連れて行って一緒にやってくれればいいと言うが、そこまではできないのでしていません。

新井 社会福祉協議会の新井です。先程大竹委員おっしゃられたような民生委員さんや地域で活動されている方はサロンとか体操とかでは聞くチャンスがあるのでしょうかけれど、やはりそういうところに参加されない人の生の声をどうするかというのが重要な部分だと思っています。民生委員の活動の中で抱えられた声や、事業所さんやケアマネさん、ケアマネ・ネットワークさんの中でもそういう声は出てくると思います。生の声に

近い方達に接していくのが重要かと思います。我々としては今年度から福祉相談室と2年間かけて地域福祉計画と地域福祉活動計画を策定していく予定です。その中では圏域ごとに地域の方のアンケート調査などのヒアリングをしていきたいと思っていますので、それは高齢者だけではないのですが、そういった物も活用していただく必要があるのかと思います。以上です。

八巻 ありがとうございます。では山下先生お願いします。

山下 今日は2層のコーディネーターの方の考え方を整理するための会議ということなので、2層のコーディネーターの人を見ながら話をします。最初に地域活動の捉え方について大和田地域包括支援センターから課題と考えていることを発表していますが、現場が第一なので、今から私が話すことに違和感があれば、私が寧ろ修正します。まず地域課題は何かと言うとそれは個別の課題が積み重なったもので、いきなり地域課題は何かと言ってすぐ答えられる方もいるかもしれないですが、せっかく2層のコーディネーターの方が地域包括センターで様々な相談活動をしてくださっていますから、個別の課題をかなりご存じだと寧ろそれを蓄えていくことを前提にした上で、地域課題というのは大きく分けると二つに分かれるだろうと思います。一つは例えば食欲が低下して栄養が取れていないとか、筋力が低下して閉じこもりになって骨折をして医療が必要になったという状態の個別課題はどこと連携をするかというところと皆さんご存知の通り医療関係職種と他職種協働をするというケアマネジメントを作っていきますよね。つまりその人の個別の課題というのは医療とか保険医療サービスにきちんと繋いでいくことを重要にしているので、ここの議論で言う住民の参加というのは少し薄くなっていくことになりそうです。もう一つは今日もゴミ出しの話が出てきましたが、ゴミ出しができない人がいるというのが個別の相談で、圏域の中でゴミ出しができない人がどうやら増加していると、あるいは病院に行きたいのだけれども移動手段が不足していると。さっきの転倒して骨折するという医療の話ではなくて、慢性疾患か何かで病院に頑張っているのだけれど、だんだん車の運転が心配になってくるとか、コミュニティーバスだとかの機能もその人の生活の時間とずれていて移動手段が不足している。これは地域包括ケアの五つの中の生活支援の領域が地域の課題として表れているというふうに言い切ってしまう。

次に閉じこもりということも出てきました。例えば圏域の中に集合住宅があって、40年前はすごく賑やかだった団地なのだけれども息子娘が出て行って帰って来なくて高齢化していったとどちらかが亡くなって一人暮らしになって、閉じこもり傾向になる。これは集合住宅で空き家と一人暮らしが増えていて結果的に訪問サービスの需要が増えている。実際に行っているかどうかは別にして。そしてそういう方々をサロンにお誘いしたりとか、行事にご案内したりしたいのだけれども「いいえ私は行きません。」と断

っているというのは、閉じこもりの問題が高齢者の中でも起こっているのではないかと
いうことを地域課題にする。もう一つが皆さんご存知の認知症ですよね。認知症はとに
かく増加している傾向にある。それが医療に繋がっているかどうかははっきりしていな
くて、ご本人の中ではまだしっかりしていると思っていて、でも周りの方が心配してい
る場合。「あの人が呆けちゃったから、そろそろここにいるのは危ないのでは？」と逆に
住民の理解が進んでいない。つまり対象者ではなく住民の認知症の理解が進んでいな
から、その人は早く病院や施設に入った方がいいのではないかと言い出す。つまり認知
症の方を見守る体制がオレンジリングの研修をしていますが、実際は不十分だ、みたい
なことを地域課題として捉える。そうするとさっきの骨折により入院して医療の他職種
の人と話し合うというケアマネジメント以外で言ったことはこの協議体で言うところ
の支援を必要とする要介護度で言うと軽度の高齢者でその方を支える資源とネット
ワークを作る。あるいは担い手養成講座を開きながら住民の力あるいは団体の力、企業
のそうした生活支援へのサービス提供のような関心を強めていくというのが地域課題
の文脈で言うと考えていることとなると、私がいくつかの自治体でいろいろ見たりして
いる感じだと、ゴミ出しの問題と病院の移動の難しさと買い物と閉じこもりの話と認知
症の話が地域課題として想定しているのですが、それ以外に各地域の中でもう少しこ
ういったことがあがっているという、複数ではないけれども一人の人のことだけれどもこ
ういうことで困っている人がいてそれを支援する必要がある。それが私たちの地域の課
題だという言い方もできますよね。一人の人が困っていることでも私たちの地域の課題
だというような説明を2層の打ち合わせだとか1層の会議でしてみるかどうか。どうで
すか。違うなら違うと言って下さい。

八巻 どうですか。石橋さん。

石橋 今、先生がおっしゃったことはまさに包括の個別相談で上がってくる相談や、要支援
で担当している個別ケースで積み重なっている課題から見えてくる内容として私たち
が感じていることとまさに合っているというのは実感としてあります。数でどれくらい
と言うとわからず、根拠として薄い気もするのですが。

山下 次に、地域包括センターは直営型があるので混乱するのですが、いわゆる市のここの
課だけではなく関連する課も含めた省内連携ができるかは別として関係課を含めた市
と地域包括支援センター（コーディネーター）が、今言った地域課題を共有しているか
どうか。それは口頭レベルで共有しているというレベルもあり、この議事録を見た上で
承知しているというのもあり、知っていて動かないという協議体もあり、課題を共有す
るということは半歩前へ進むことなので、それを自治体の中のネットワークと地域包括
支援センターの二者だけでやると、どん詰まりになってしまうので、どういうメンバー

を入れていくかというのが協議体のここの1層の役割に繋がるのですが、さっきのゴミ出しの問題と病院の移送問題、買い物支援の話は、例えば介護サービス事業者や民生委員さんの住民の代表や生活支援コーディネーターが話し合いをし、かつ担い手の養成講座をやったり住民に周知したりするということが想定できますが、できていますよね。

八巻

担い手養成講座は必要だということでやったださっています。今後はどういう動きをしていくかという中で感じていることは、一つできた、担い手養成講座をして、“グループさくら”ができた。そこで相談が“グループさくら”に全部いってしまうのでは意味がないことだと思います。“ゆいのわ”ができた“グループさくら”ができたからといってケアマネさん全部どうぞではなくて、ケアマネさんはケアマネさんの中でできることは考えてくださいというのは伝えているつもりなのですが、「今やっているよね」と言われドキッとしたのは確かなので、「やってます」と自信を持って言えるくらい毎回毎回伝えていかなければいけないと思いました。それでいいでしょうか。

山下

あまり急いでやっても決着しないので、じわじわやるのも大事です。急いでやったら相手側がそのペースについて来られなくなってしまう。次は閉じこもりの話ですが、閉じこもりの議論をもしたいという時になったら、ちょっとこのメンバーだけでいいか検討をした方がいいと思います。集合住宅の自治会の代表者さんや見守りをしてくださる方々民生委員さんも含め、ボランティア団体とかがあればなおいいのですが、あとは生活支援コーディネーターが閉じこもりの家族の中に突入することも必要です。地域包括支援センターの職員としてでもいいのですが、扉を開ける努力をしなければいけないので、民生委員さんと一緒でもいいです。そういう複数でいいです。そうするためには、集合住宅の自治会の機能が低下している可能性もあるのですが、情報交換会みたいな事を仕掛けていくかどうかという、ここの中では議論が詰まってしまう。新たな情報を取り入れるということがその地域課題として閉じこもりというものが出てきます。手を替え、品を替えやるしかないのです。皆さんご存じなので避けます。最後にもう一つだけ地域課題がありまして、医療関係職種との他職種協働という地域課題と住民の参加を含めたネットワークを作って支え合うということと、もう一つ複合課題の家族や高齢者・障害者が同居しているケースに関連することをどうするか。この手法は全国的に確立されていないのですよね。それを地域課題の中で気づかれているのではと推察されます。もしかして包括の方が、民生委員さんとはとっくに気付かれていると思います。そこについては生活支援サービスが展開するとか、そういう単純なカタチではないところでいくのですが、老いの問題と家族の問題と重なり合っているのです。生活支援体制整備事業ではないという言い方もできるのですが、生活支援体制整備事業という体制整備というのは地域作りという意味なので、生活支援地域作り事業なので、そうするとその方が家族と暮らしていく選択もあります。家族と別れてひとりで引きこもりの方が

自立していくという道もあるので、そうすると家族というのは美しいだけではないのですが、そこも視野に入れた支援をどう作るかという三つが地域課題として出てくると思います。捉え方は主に医療そして主に地域支援と地域生活支援そして複合課題、これが地域課題だと思います。最後に生の声をどう聞けばいいかということですが、本当に生の声「助けて」と言えるには、「わかりました」と言って解決してくれるような受け止める力を持っていないと実際は言わないのではないですか。「助けて」と言って助けてくれなかったら言って損したと思うので、そこに受け止める力をどういうふうに地域の中で作っていくか。一人の人が受け止めないで済むような仕組みをどのように作るか。それを八千代社協の方がおっしゃったようにサロンや体操などを使いながら発見と気付きという仕組みを地域福祉計画の中に入れていく必要があると思います。その発見と気付きというのは、地域包括やケアマネジャーが体験することなのですが、本人は困っていないと言う。民生委員さんにも「いいえ困っていません」と言うのですが、本人は困っていないが周囲が困っている、家族が困っているという状況に家族以外の社会の力でどこまで助けられるか。今回ゴミ出しのアンケートをされてとても良かったと思うのですが、その詳細を見ていないのですが、もし間違っていたら悪いのですが、来年もそのアンケートをなさってアンケート項目の中に「もしゴミが出せない人がいたらお手伝いをしていただけますか」と言う項目を書いてなければそれを入れてみると、「最後にその他で何かあればひとこと書いてください」と入れると「寂しい」とか「退屈」とか「災害があった時に誰が見てくれるかが心配」などの声が出てくるので、お手紙形式で往復はがき1枚でもいいですから、生の声を聞いてみる。直接ではなくても間接的に聞けたり、ご本人が書いて下さったりするかもしれません。これはいろんなところで起こっていることを混ぜて話しているので空想ではないのもうちよっとしたらできるかなと思います。

八巻

ありがとうございます。生の声を聞くには「わかりました」というところを今まで顔の見える関係をと言いながらも解決できるかどうかを問題ではなくて、ネットワークを広げているんな人が繋がりを持って声を聞くことの方が、その土台をつくる方が先なのかと思いました。生の声を聞くということに執着しないで今出てきているところでネットワークを広げて自分たちが何をできるかを進めていくのも重要なのかと思いました。庁内連携ということが出ましたが課内でちょっと隣の課に話をしてくれるといいのかなと、先生のお話を聞きながら感じました。

石橋

ゴミ出しについてですが、八千代市は担当がクリーン推進課というところになります。実際勝田台のグループさくらさんがゴミ出しを支援する時にこういうことをやりたいとクリーン推進課に相談を持って行ったという話を聞いていまして、庁内でも実際のどのくらいの人困っているのか、ニーズ調査が必要だという声が上がっていて、長寿支

援課と地域包括とクリーン推進課と障害者支援課と担当者レベルですが集まって、まずどんな課題があるのか意見を出し合って、個別収集するのか、そういう必要があるのか、どういふことを今後やっていけばいいのかということをも前向きにまず現状を知るところからやっていこうというので、庁内でそんな動きがあります。

八巻 それはぜひ進めていただきたいです。時間も押してきましたのもう一つ大和田包括から地域資源マップをどのように考えて作成していけばいいかということも出ておりましたので、山下委員お願いします。

山下 これは実際の地域支援マップを見せていただかないとわかりません。私の立場は地域資源マップが一覧にされているのが事業所レベルや地域包括支援センターの中で作られるにはいいでしょうが、支援が必要な人々にとって必要なのは行政の地域資源・行政サービスや福祉サービスと生活支援の企業と買い物先のサービスです。一番大事なのが今日資料を持ってくれば良かったのですが、インフォーマルな資源を4つの項目に割って作るというのを10年前からさんざん言っているのですが、ここで言っている地域資源マップで一番足りないのはインフォーマルな資源です。生活支援体制整備事業は要介護でない手前の人なのでさっきのサービス支援から話を聞くことやサロンでという話になるので保険医療サービスは適切に届けるというのは前提だとすると、ここでいう地域資源マップはゴミ出しをしてくれてお話を聞いてくれる人がいるというのが重要な地域資源で、そういう捉え方を蓄積していくのがいいのではないですか。全部がゴミ出しですっきりするなんてあり得ないので、ただこの人にはゴミ出しができるネットワークが先程のグループさくらできているとか、何とかなっているところは何とかできている理由を発掘して地域資源としてマップ化していくことの方が2層のコーディネーターらしいです。全部をクリーン推進課に頼んで個別収集を頼むのではなくて、常に住民の中でなさっているところを負担の無いように力づけていく。ただそれだけではいけないのがゴミ出しなのです。一番ゴミ出しの資源マップとしてほしいのは、引きこもりでゴミ屋敷の時に粗大ごみを片付ける料金を行政が持ってほしいというのが一番の真意です。それをだれが負担するかは非常に大変なので、そういう仕組みをどういう根拠で作るのか一つの課でできる話ではないので、いろんな実体を作りながら個別の対応ができるようにしていく。あつたらしいなという資源を思い描けるようにコーディネーターの方は書いて、つまりある資源を書くのではなくさっきの地域課題に照らしてこういう資源があつたらしいということを書けるような資源マップを是非書いてほしいなと思います。

八巻 ありがとうございます。マップについてはまた今後も検討していきながら山下委員が言ってくれた視点を入れながら作成をしていければと思います。山下委員が持って

こなかったという資料を見せてもらうことはできますか。ぜひ次のコーディネーターの会議に参考にさせていただければと思います。では山崎会長これまででコメントをお願いします。

山崎 ありがとうございます。大和田包括に教えていただきたいのですが、2層の中でいろんな結果が出てきて問題項目をこれだけ提示しているのですが、何を最重要に考えていますか。お聞かせください。

石橋 まさにそこを悩んでいて質問を質問で返すようですが、皆さんから出てきた内容は漠然とふわっとしている内容で、実際困っているのはそこなのだというのが分かったのですが、協議体で出された意見をどのように議論して今後の方向性を考えていけばいいのかというのが、今悩んでいるところです。

山崎 2層のコーディネーターが心配なところがたくさんあるようですが、問題を抱えてそれをどうやってクリアにしていくのか。統一のマニュアルを作るなりしていかなくてはいけないと思います。だから山下委員から先程話があった集合住宅でのケア対策が大変な問題になってきている。市の建築関係の担当課が調査を始めていますが、集合住宅の場合1所帯が駄目になると、その負担は共有財産で全部負担するというようになってきます。老後亡くなった時に相続を受け取る人がいない、相続人が相続を拒否するとすべてそこは処分しなければならなくなるのですが、団地は新築で購入価格は800万くらいで大体40代くらいで買っているのですが、今80代を過ぎてくると資産として運用できない。40年経って売ると200万くらい。800万が200万に下がってしまう。そうすると買い手もなく競売に出すしかなく、そして息子さんが要らないとなると、管理組合がそれを背負っていくことになります。そういう例が普通のマンションで40所帯としてこの内5所帯が駄目になると管理組合の運営ができなくなってしまう。こういう問題が出てくるので、空き室の問題が大きな問題になる。新しいところは3000万でも4000万でも売れるけれども過疎になってくると200万でも売れなくなってくる。せっかく40年かけてローン払ったら二束三文になってしまう。そもそも高齢者の行き場がないのです。売却してどこかに行こうとしたらどこも貸してくれるところがない、という問題が出てくるのです。今URがやっていることですが、高齢者になって入居を申し込むと今はいっぱいで駄目です、と断られます。まず貯金通帳を見て、1年分の家賃が用意されてないと入居ができないということになっています。したがって民間に行けばなおさら難しくなります。これから空き家問題は大きくなってきます。次は阿蘇包括をお願いします。

野添 阿蘇・睦地域包括支援センターの野添と申します。よろしく申し上げます。少しだけ

活動が進んできた中で、今回の会議では普段なかなか思いつかなかったことや感じなかったことを少し感じ取れたなということで、今日はお話しさせていただきます。活動を特別2つ挙げているのですが、これは軌道に乗ってきた状態の2つです。1つ目は担い手講座の中で事例を話し合うことで取り組みに繋がったのが朝カフェです。先程お話にもありましたように、男性の孤独死や孤立をどうやって防ぐかというところから、参加した人たちの「朝ゆっくりとコーヒーを飲みたいのではないか」という思いが繋がり、立ち上がった取り組みです。ボランティアさんは9名で初期費用をどうするかでしたが、皆さんが出資をして立ち上がりました。使っている物などをいろいろ集めながら準備は割とスムーズにできました。始めてみるとボランティアの方たちから「男性高齢者の方たちが結構顔なじみになってきて、安否確認ができるようになった。」「サロンの催しなども声掛けしやすくなった。」ということを知っています。また、知らない高齢者夫婦、赤ちゃん連れの親子、最近では外国の方も来るようになってきました。100円という安い金額で始めていますが、野菜やお米の寄付もあり、おにぎりやトーストなどのリクエストにも答えています。やっている方たちがかなり大変ではあるけれども、とても楽しいという話をしているので、“楽しい”ということに繋がっているのかと思います。食べに来ている以外にボランティアの方たちと顔見知りになることが来る男性高齢者を引きつけていると感じています。感じているというところだけで取り組むことでもいいのか、今後そこから何を見て何を考えながら広げていけばいいのか悩みの一つです。

それからもう一つは“ゆいのわ”説明会を第2層生活支援体制整備事業協議体会議の中で、私たちが地域の皆さんを支えたいという住民のボランティアの中で社協がやっている「ゆいのわ八千代」を窓口にして、サテライトとして「よなもと」有償ボランティアが立ち上がりました。今年の4月から活動を開始して、“ゆいのわサポーター”は福祉委員を中心に11名が登録しています。サポーターリーダーが社協とケース・サポーターを調整し提供のコーディネートをしています。現在、9名の利用登録でゴミ出しや粗大ゴミを出してほしいというニーズに答えています。それにプラス遠出の買い物、緊急的な買い物のリクエストが出ています。ボランティアの方たちからはやはり階段昇降がたいへんになってきてゴミ出しや買い物ができないのではないかと、という話や、粗大ゴミを出すにあたっては男性の登録を増やしていくことなどが検討されています。こういう取組みの中で課題とマッチしているのかどうか、自分の中で煮え切っていないところをどういう評価をしていけばいいのかは疑問にあがっています。先程生の声というのがありますが、会議を重ねていくと地域の関係者の方たちが課題にぶつかるのですが、直接困っている方は地域の会議には出て行けない、自分の恥となることや困っていることは近隣の人に聞いてもらいたくないことが多いので、なかなかそこを出すことが難しいのではないかと思います。高齢者の家族の周りが心配していても“家族の問題だ”と家族の方から言われてしまうと近隣からはなかなかそこを超えて介入することはできない、という声を聞いております。そういう中で認知症サポーター養成講座や介護予防

いきいき教室に参加している人から聞く話では、認知症予防が大事だというのはとてもわかるのですが、話し相手がいないので一日ゆったり過ごしていると認知症も心配になってくるとか、介護予防教室が楽しいのもっと続けたい、やってみたいという声があることからサロンなどの取組みを進めています。会議だけでなくこのように関わる中で取組みを続けているのですが、課題とどう向き合っていくのか、やっていきながらでいいのか教えていただければと思います。

八巻

野添委員ありがとうございました。今出していただいた中で今後どのように取組み、評価をしていけばいいのかを野添委員考えているのでしょうかけれども、皆さんからご質問や何かご意見がありましたらお願いします。もちろん2層のコーディネーターさんから野添委員に質問があれば出していただければと思います。

今回の野添委員の発表は米本のことが多かったですね。今まで睦の2層で事業所と連携してやっていただいたので白濱さんに当然振ることはないです。

山下委員にアドバイスを先にいただくというのはよろしいですか。

山下

良くできていると思います。一つ目今後、取組みからどのように評価をしていくといいのか、というこの評価なのですけれども、他の包括の方々に共通の自らの取組みをどう評価するかというと、一般的に言われているのが、取組体制という仕組みがどういうふうになっているかということですが、これはあまり気にしなくてもいいと思います。むしろプロセスと結果だと思います。プロセスというのは先程の担い手養成講座の中で事例を話し合うというのが肝で、孤立死・孤立を防ぐために朝カフェを開催したというプロセスを他の包括の方と共有してみて、“できそう”とか“参考にしてみよう”ということと、最初ボランティア9名で初期費用出資をして、八千代の住民の方は初期出資できる人が多いからそこは大いに頼んでどんどんやればいいのか、出せるのなら出せない人のことをどうするかではなくて、出せる人たちで作ったということの評価して、50人60人に増えていってもどのように増えていったということを簡単に文章にしておく。つまり出入り自由で誰でもお迎えするとか、野菜やお米の寄付はどんどんもらうとか、そういうことを一つの取組み例としていけばいいのではないのでしょうか。ちなみにこれはいつ始まりましたか。

野添

平成30年の10月です。

山下

間もなく1年を迎えるので一度ボランティア9名の方と振り返ってみてボランティアがさらに増えたのか、抜けた人がいてもいいし、実はその人達が御膳立てから疲れていてこのままやっていけるのか、週1回なのでかなり一生懸命やる時は毎週何をやろうと考えている人達が、サロンでもよくあることなのですが、すごくゆったりとやっていら

っしやるのならなお OK だし、男性のコミュニティというのが面白くて世の中なかなか男性がやらないので、それも一つ注目していけばいいなと思います。きっと誰かいるのですよね。次に社協「ゆいのわ八千代」の力を借りながらサテライトとして「よなもと」有償ボランティアが立ち上がったということです。ゴミ出し・買い物支援をなさっているのですが、この方々もできればちょっとした時間に話が聞けるのであれば、数か月経ったところで感想などを聞いて、その人達から見たゴミ出しや買い物支援を必要とする人の姿など感じたことを生の声として集めてみて、先程の階段の話など訪問の話も聞いて、各 5 つの包括と行政の担当課で共有してみて要支援状態の高齢者の姿を蓄えるといいのかなと、これが評価でいいのかと思います。議会に行く時は 50 人 60 人が使いやすいと思います。延べ数がいいのです。

次に第 2 層の協議体会議を小さい圏域ごとに開催していることで地域の課題が上がっていない状況があるというのは、先程の考え方で枠組みを作れば見えるかと思いません。家族の問題と言われて介入できない介入しにくいという問題は、協議体ではなくて地域包括支援センターの方々のソーシャルワーク力で、個人と家族をどうやって見ていくかというスーパービジョンみたいなものをまず試みて、関係者の方と考えていく。本当に難しい話なのでそういう整備でいいのかと思います。

次に認知症のことで介護予防のいきいき教室ですが、介護予防のお話をします。こちらは「介護予防教室」のリーダー養成などは行っていますか。

野添

地域包括支援センターへの委託業務として包括の職員が介護予防教室を行っています。

山下

八千代市のことはわからないのですが、東京都の港区で「介護予防リーダー講座」というのと介護予防のメンバーになるような介護予防教室を自分で立ち上げようとする人を育てる講座とリーダーにはなりたくないけれど、介護予防教室に行って何かしたいなという講座を港区の行政が包括と一緒にやっているのですが、そこで介護予防のリーダーになる人がいっぱい一定数いるので、港区は人口 28 万人くらいなのですが、もしかして八千代でも介護予防教室を住民で運営しましょうと仕掛けをしたら一定数集まる可能性はあります。ただその中に運動が嫌いな人もいて、そういう人たちはサロンを開き始めるのですが、そのサロン講座を社協がやっていて、私が過去 5 年間港区社協の小地域福祉活動養成講座を、5 回連続でリーダーを作ってサロンを作って立ち上げの講座をやりました。でもそう簡単に集まらないのです。話だけ聞いて実はやらないのです。5 年経って初めてこの間大型マンションでとうとう私たちはこのマンションで死にたいからみんなでサロンを作ります、と言う人が出始めたので、介護予防の教室やサロンとか住民が自分たちで集まる場所を作ろうというのは、経験則でいうと 5 年くらいかけてじわじわやって既にあるサロンに住民が見学に行ってお金やプログラムはどうするの

かなどみんなでプログラムを回して使えるようにして話し合えるように住民同士で始めるので、そういうような仕掛けを中長期的に作る可能性はありかと思います。

問題は認知症ですがどのような認知症の人をどのように支えるか、つまり一人暮らしの認知症だったり一人暮らしで認知症ではないかもしれないけれど周りが認知症だと思っていたり、家族がへとへとになっている認知症の家族だったりするので、認知症サポーター養成講座は薄っぺらじゃないですか、あれをもう少し考えないと多分それだけやってもうまくいかないと思います。だから認知症の人と家族のことを調べるところからやってもいいのではないのでしょうか。

伊藤

シルバーの女性部会で1年間通して3回認知症サポーター講座をやりました。1回目は村上包括の岩田さんたちにやってもらい、オレンジリングの意味やどのような人が認知症だとか、認知症になったらどうなるかなど家族の心配事とかそういう話をしてもらい、講義や寸劇をやってもらいました。2回目は本当に認知症になった時に車椅子の乗せ方とか衣服の脱着の仕方の講座をし、3回目はみんなで話し合いをしました。最後に今高齢化しているので食事も少量で小さいものしか食べなくなっているの、石井食品の見学をして試食させてもらい、年に4回勉強会をさせてもらい、先生のおっしゃるミニ版をやりました。女性会員が65人しかいない中でそれでも22人集まったので、私自身は良かったと思います。もう少し大きくすれば社協さんと一緒にやっていきたいと思っています。まだ少し任期があるからよろしくお願いします。

山下

できたら逞しい認知症の人に出会いたいですね。支える側も大事だけれど認知症を持っていて生きている人がいてその人と周りがどう関わっているか、八千代市民にどうか。人に迷惑を散々掛けながら生きている人がいるかどうか、それを許す社会かどうか。

八巻

今の山下委員の認知症の方というところで、保坂委員と犬塚委員はサロンを開催していますが、認知症の方はいらっしゃいますか。

保坂

実はいるのです。サロンを作る時に元気体操の方たちが、いずれ自分たちが体操をできなくなったら居場所としてサロンを立ち上げたいという意見を受けて、事務的な部分や市とのやり取りはこちらでやりましょうと集まったメンバーが私を含めて11名のスタッフでした。次に誰を呼ぶかどうしようかという時にサロンというと元気な人ばかりが集まってしまうかもしれないから、ロコミにしよう、自分がこの人と思う人をロコミで誘おうということになり、現在では常にボランティア側は8割くらいの7~8名が出席していて、他に十数名の方が来ていて20名以上30名にはならないというスタンスなのです。その中で今の認知症のことですが、ずっと一緒に長く住んでいてどうもあの方

は認知症っぽい、本人も薄々わかっているけど「あなた認知症ね」と言ったら傷つけることになるし本人も拒否するので、このサロンに誘って実際に来ている方がいて周りがわかっていて本人も薄々わかっているながらも、この間は七夕で折り紙をした時もうまく折れないけれど積極的に教えてもらいながら折っていました。その方が初めて来た時に、履いて来た靴がわからなくなってしまい別の方の靴を履いて行ってしまったこともあり。その時に対策として名札を作って全員が付けようということになり、お一人のことですが周りがサポートをしてスタッフが知恵を出して、その方もいつもいらっしゃるのでスタッフの優しさを感じました。本当に近所の人を誘ってくるという一つのケースなのですが、やらせてもらっているサロンは、今山下委員の話聞いてこのサロンをやっているすごく良かったなと思います。認知症の方に出てきてくれてありがとうという思いです。お一人暮らしなので下手をしたらそっぽ向いて、近所の人からただ心配されるだけの方だったかもしれません。

山下 すごい地域資源ですね。

八巻 やっている方が良かったですよね。元気な認知症の方というのは、その方にも役割がきっとあるのですよね。その活動の中にあるというのを見つめて行けるといいのでしょうか。犬塚委員のサロンはどうですか。

犬塚 私のサロンは残念ながら認知症の方はまだみえてないのです。ただちょっと足が不自由で要支援になった方がいらっしゃって、大動脈瘤の方で、リハビリを受けられて要介護4から要支援2に回復したというご主人の奥さんが車で連れて参ります。その方は歩くのは大変そうですが、体操も一緒にやりますし、頭は私たち以上にしっかりしていてよく喋ります。私たちのサロンはまだ認知症の方たちに対する勉強はできていないのですが、いずれいらっしゃったら受け入れて仲良くやりたいと思います。規模が高津比咩神社の向かいの近くの1階なのであまり大勢の人数は受け入れられないです。この間17名で体操をするにはちょっと窮屈でしたからアットホームな感じの雰囲気です。

八巻 来た方の役割というのがこれからのサロンを担っていくのかと思います。野添委員からもお願いします。

野添 少し整理ができたかなと思います。やっていって上手くいっている理由とか来る方の様子を見ながらボランティアさんと何がどう上手くいっているか、もう少し広げられるのかはさじ加減かと思っているので、その辺は今日上手く整理ができたかと思っています。

八巻

ありがとうございました。今日は大和田地域と阿蘇・睦地域の状況について先生からの方向性も踏まえてお話していただきました。皆さんの中で野添委員に質問があればお願いします。今後、地域で協議体を開催した時にこういう話が2層でできればもっと具体的にになりますので、1層の委員の方は協議体に参加した時はご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

八巻

それでは、議題の4番の第1層の生活支援体制整備事業の今後の方向性についてですが、私から説明させていただきます。今、皆さんがお話したのが全てかと思います。1層の協議体で、2層の生活支援コーディネーターが各地区で課題を抽出して、そこに必要なもの、居場所などを活動しており、まだまだ、丁寧な話し合いが必要となっています。1層の委員としてはお話を伺って2層の活動を見ていただき、地域の課題を解決する方法を1層の委員と一緒にもう少し話し合う必要があります。5年後10年後を見据えて2層の皆さんが焦らないように長い目で必要なことをやっていければいいと思います。いま必要なことでどうしたらいいかという二つの視点で支援していきたいです。山下委員のご意見を願います。

山下

1層の今後の方向性を決めるのは八千代市だと思いますが、65歳以上、75歳以上の高齢者数や要介護認定を受けている方などの数値を2025年に中長期的な視点を持って、どれくらい一人暮らしの高齢者が増えるのか、空き家がどうなっていくのか、生活基盤に関連する行政の見通しがあると思うので、中長期的な視点を持つことが必要です。また、企業が協議体に協力できるのか見立てをしていく、などのマクロ的な視点を持っていくこと、参加するメンバーの生活支援領域を開拓できるかどうか、サービスの累計従前の訪問介護ではなく、新たな多様なサービス、A、B、Cなどをどう検討していくのか、考えていく必要があります。

八巻

市の方針と一緒に検討しながら、第1層で方針を検討して2層のコーディネーターを支援していきたいと思います。

山崎

長い間ありがとうございました。大変いろんな意見をいただきました。協議体の他のお話もありましたが、地区社協として頑張っていたいただければと思います。

椎名

A、B、Cはなくなったのではないですか。ボランティアは限りがあるので、Bでやったほうがいいと思ったのですが、市の方針が見えず、生活支援の講座をやりなさいというのかわからず、A、B、Cがないといけないのかなと思いました。サロンに来たいけど、足がなくて来られない方に対して、サービスに近づけるのであれば、送迎の部分を考えるのはどこなのか、また、サロンで保険に加入しているが、別の市では市全体で入って

いるところもあるが、八千代市ではだめだった業者から聞き、ボランティア保険を市で入っていただけると広がりやすくなるかと思います。

大竹 福祉総合相談室の山本室長が来ていますが、協議体が2期目に入り、福祉総合相談室が中心となり、大きな同じことをやろうとしていますよね。それとこの協議体はどういう風にかかわっていくのですか。

若林 生活支援体制整備事業は介護保険事業で高齢者の生活支援を支えるという目的ですが、地域福祉計画は、高齢者だけではなく、障がい者、子ども、を含めたものになります。仕組みとしては地域で支えるという点は同じですので、今回室長も出席していただき、高齢者部門として生かされることになります。

椎名委員のご質問ですが、総合事業を所管しているのが、長寿支援課の齋田になりますので、今回第7期の介護保険事業計画の中で総合事業の方針を定める予定です。他市町村では緩和したサービスの利用実績が少ない、参入業者が少ないと聞こえていまして、習志野市の視察では通所1件、訪問は0件とのことでしたので、仕組みを作っても軌道に乗っていないことは把握しており市として今後見極めていきたいです。サロンの保険につきましては、保険料などの予算もありますので、ご意見として頂戴いたします。

白濱 6/20 ケアマネ・ネットワークの総会がありまして、第1回の研修で各地域包括支援センターと行政の紹介ということで、第2層生活支援コーディネーターの方から各地域包括支援センターを紹介していただきました。100名のケアマネジャーが参加しており、地域の活動がわかってよかった、顔が見える関係が作れてよかったという感想がありました。また、何かありましたら、圏域に関わらず、ご相談いただけたらと思います。ご協力ありがとうございました。

八巻 倉沢委員と鈴木委員にご意見いただけますか。

倉沢 A型、B型と市としての動向によって参入していくのか、非常に大きなテーマの一つだと思います。地域資源の一つとして使っていただければと思うのですが、それぞれ会社、社会福祉法人もありますので、運営がつぶれない程度に活かしあえればと思っています。移動やごみの問題がでますが、自分自身も内容を詰めて発言できるようにしたいと思います。

鈴木 介護サービス事業者の鈴木です。日頃、制度を使わない方もいますので、介護保険でサービスを提供するには縛りがあり、例をあげますと、本人の家で料理をするときに本人分しか作ってはいけない、訪問介護は、1度家に入ると2時間空けなくてははいけない

など社会保障でできる内容は専門的でプロができることは限られています。会議の内容は真逆だと思うので、森委員の話はインフォーマルでしかできないサービスだと思います。専門的なものが必要だと介護保険のサービスなどケアマネジャーと連携が取れると地域包括ケアシステムが目指すところだと思います。今後、介護サービス事業者協議会でも生活支援コーディネーターにお話ししていただく場として使っていただき、その中でサロンの場所や移動など協力できる施設もあるかもしれないので、まずは距離感を近くしたいと思っています。

八巻

ご意見ありがとうございました。長寿会連合会から担い手養成講座の依頼をいただき、第1層コーディネーターとして8月に2回開催予定です。1回目は地域包括ケアシステム、生活支援について倉沢委員と鈴木委員にご協力していただく予定です。また、さわやか福祉財団の支えあいゲームをする予定です。興味のある方は、詳細をお伝えします。次に事務局からお願いします。

石橋

事務連絡を申し上げます。今年度の会議は今日を含めまして、2回を予定しており、2月ごろを予定しています。委員の委嘱が12月末となっておりますので、改めて各団体にご推薦いただき、来年の2月に開催となります。今回の会議で委員を終わられる方もいらっしゃるかと思います。ご協力ありがとうございました。本日の会議は以上となります。ありがとうございました。